

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社フレンズホーム		
事業所名	グループホーム フレンズハウス中島新町		
所在地	名古屋市市中川区中島新町一丁目502番地 (電話) 052-846-2665		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年5月17日	評価確定日	平成19年7月5日

【情報提供票より】(平成19年5月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u>	17年9月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	15 人	常勤 10人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	31,500 円	
敷金	有() 円	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> 172,500 円	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(平成19年5月3日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	8名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	67歳	最高	91歳
協力医療機関名	医療法人まいさ会 近藤クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅街に位置し、建物は淡い色調の外観である。市内にある連携法人のホームと合同で1泊旅行や日帰り旅行にでかけたり、催し物に参加したりと交流や連携が図られている。理念である「明るく 楽しく 元気よく」のとおり、入居者と職員が共に助け合い協力しながら和気あいあいと過ごしている様子がうかがえた。入居者の趣味や得意なことを活かし、川柳や書道、絵手紙、おやつクラブ等、ユニット毎にクラブ活動に取り組んでいる。また、行事やレクリエーションの機会を積極的に設けており、入居者も楽しみにしている。家庭生活の延長として、入居者が自由で安全にホームで生活してもらえるよう努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 評価結果については、会議で職員に報告している。改善点については優先順位をつけ、できることから取り組んでおり、申し送りや会議を通して職員に伝えている。職員からも積極的に意見が出ている。職員への理念の周知については会議や申し送り時等に管理者から話がされている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義が管理者から職員に対して伝えられ、理解されている。自己評価については、職員一人ひとりが意欲的に取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議のメンバーには民生委員や連携法人の事業者、入居者が参加しており、ホームについての説明や、事業報告、事業計画を報告した。地域の方から意見や感想をもらい、会議を通して職員に報告している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱が玄関に設置されているが、家族は直接職員に話をしている。年1回連携法人の合同家族会には3家族出席された。運営推進会議にも家族に参加を呼びかけているがなかなか出てもらえない状況である。ホームの行事(クリスマス会)に家族の参加を呼びかけており、来訪時は積極的に家族に声をかけ意見を言いやすいよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、地域の公園の清掃に参加した。また、小学校で開催された敬老会に招待された。散歩の時に近所の方と挨拶を交わすことで少しづつ交流を深めている。大正琴のボランティアが毎月訪問している。開所して1年半が経過し、地域との交流はこれから取り組んでいきたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	形だけの理念ではなく、職員全員が理解し支援につなげられるように、4月に理念を作り変えた。「明るく 楽しく 元気よく」は、入居者と職員が共に明るく、笑顔で元気に過ごしてもらいたいという思いがこめられている。	○	作成されたばかりの理念であるが、地域密着型サービスの役割を反映した内容を織り込むことやグループホームに関わる法令の意義についても共有していくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関や各フロアに掲示されており、日々の申し送りや会議の際に、管理者が全体の雰囲気を見ながら状況に応じて話をしている。レクリエーションや行事の計画を職員が積極的に提案しており、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域の公園の清掃に参加した。また、小学校で開催された敬老会に招待された。散歩の時に近所の方と挨拶を交わすことで少しずつ交流を深めている。大正琴のボランティアが毎月訪問している。開所して1年半が経過し、地域との交流はこれから取り組んでいきたいと考えている。	○	町内会に加入していることから、寄合いや地域の活動、行事を通して交流を深めることができるよう、情報収集や接点を持つていくための取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果については、会議で職員に報告している。改善点については優先順位をつけ、できることから取り組んでおり、申し送りや会議を通して職員に伝えている。職員からも積極的に意見が出ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには民生委員や連携法人の事業者、入居者が参加しており、ホームについての説明や、事業報告、事業計画を報告した。地域の方から意見や感想をもらい、会議を通して職員に報告している。	○	家族や外部の幅広い人がメンバーに参加してもらえるように働きかけていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回区役所に訪問しているが、情報交換までには至っていない。現在、取り組みとしては行っていない。	○	担当者に事業所の考え方や現場の実情等を積極的に伝えていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に入居者の状況や様子について説明している。また、出納帳についても確認してもらっている。ホーム便りである「フレンズ通信」を定期的に送付しており、行事の際の写真が掲載されている。家族へは来訪時以外に、電話やFAX、手紙等で連絡をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が玄関に設置されているが、家族は直接職員に話をしている。年1回連携法人の合同家族会には3家族出席された。運営推進会議にも家族に参加を呼びかけているがなかなか出てもらえない状況である。ホームの行事に家族の参加を呼びかけており、来訪時は積極的に家族に声をかけ意見を言いやすいよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職を抑える予防策として、職員には希望休や有給を取れるよう配慮している。時間は決まっていないが休憩をとれるようにしている。職員の異動はほとんどなく、各ユニットの職員は固定されている。職員が退職する場合は、2ヶ月前に届けを出し、引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3カ月に1回、連携法人の研修に参加しており、入浴の介助についてや、コミュニケーション等について研修している。名古屋市グループホーム協議会の研修にも参加しており、職員は順番に研修に参加している。研修後はレポートを提出し、資料を職員間で回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会に加入しており、研修等に参加している。区内にある連携法人のホームと日帰り旅行や一泊旅行、夏祭りに参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は実施していないが、体験利用をしてもらっており、他の入居者と過ごしたり、レクリエーションに参加してもらうことで雰囲気を味わってもらっている。実際に利用される方は少ないが、本人が納得して入ってもらえるよう準備期間をおくため、家族に説明し必ず本人に見学に来てもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は、申し送り時に「共に支えあう」ことを職員に伝えている。入居者の得意なこと好きなことを行事に取り入れ、アドバイスをもらっている。入居者が入居者の世話をすることもあり、共に支えあっている。職員からも「お互いに意思疎通ができ、はっきり言ってくれる人もいる」ということが聞かれた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日頃の会話の中で、本人の意向の把握に努めており、会話の時間を大切にしている。入居者の生活歴や言動、表情から汲み取るようにしているが、把握が困難な人には、家族に相談し確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者には担当の職員がおり、担当者の意見や入居者の個別記録やケアチェック表で入居者の現状について把握し、それをもとにサービス担当者会議で話し合われ介護計画を作成している。入居者本人や家族の希望も聞き反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回、ユニット会議とケアカンファレンスを行っており、入居者の状態について話合っている。介護計画については、3カ月毎に見直しを実施しており、状態に変化があった場合は、随時見直している。家族には、電話や郵送で報告されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、協力医療機関や看護師と24時間連絡、対応できるようになっている。入院時には、病院での洗濯や物品購入の代行をしている。通院の付き添いは、家族の希望に応じ職員が対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望によりかかりつけ医への受診は可能である。協力医療機関の定期的な往診があり、看護師の訪問もある。緊急時には、相談や指示を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化時における医療サービス提供内容に関する指針」を入居時に家族に説明し同意書をもっている。実際に経験はないが、医療機関との協力体制があり、職員にも方針について説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関に個人情報の取り扱いについての文書が掲示されており、入居時に家族にも説明されている。ホーム便り「フレンズ通信」に入居者の写真を掲載することは、家族の了解を得ている。職員は入居者に接する際の言葉かけに注意しプライドや誇りを傷つけないよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則や制限などは設けないようにしている。入居者は個々の居室で過ごされることが多く、行事やレクリエーション、クラブには入居者が自由に参加している。訪問時に、居室でテレビを見ている方やリビングで職員とおしゃべりしている人など、思い思いに過ごされている様子がうかがえた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理には入居者が関わることはないが、配膳や片付けは入居者が積極的に行っている。おやつクラブがあり、入居者と職員と一緒に作っている。献立は、入居者に確認し、希望を取り入れている。また、寿司の日やお弁当の日などを設け、入居者が自分で好きな物を選んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴となっている。入居者の希望により毎日入浴している人もいる。1階の浴室の壁に水槽があり、熱帯魚を見ながら入浴することができる。入浴できない場合は、清拭で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸、川柳、おやつ、絵手紙等ユニットごとにクラブ活動を入居者が職員と一緒にしており、作品がリビングに掲示されている。また、協賛法人のボーリング大会や輪投げ大会に参加しており、賞状が居室に飾られていた。ベランダで花や植物を育てている人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブによく出かけており、入居者は楽しみしている。車から外の景色を見るだけでも気分転換になっている。食事の買物や近所の喫茶店にも出かけている。散歩には週3回くらいでかけており、できるだけ外出の機会を増やしていきたいと取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠することはない。入居者は外の花に水やりをしたり、散歩にでかけている。フロアの入口はボタンを押すと自動に開くようになっているが、ボタンの位置はドアの上部に設置されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災会議を実施しており、防火管理年間計画がたてられている。定期的に避難訓練や救出等の訓練を行っており、夜間を想定した訓練も実施した。居室には熱感知器、リビングには火災報知器が設置されている。非常用食料や備品も用意されている。	○	今後は、地域との協力体制を築いていく働きかけに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェックし、記録している。医師より指示を受けている入居者もおり、入居者の状態に応じて支援している。入居者の好き嫌いに対しても配慮している。月1回の体重測定や健康診断等で把握している。	○	1日の摂取カロリーについてはおおまかに把握されているが、専門職からのアドバイス等を受けることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、ユニット毎に季節感あふれる作品が飾られていた。また、旅行や行事の際の写真、ホームで行っているクラブ活動の作品もたくさん掲示されている。掃除も行き届いており、換気や照明も調節され快適に過ごせる環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや冷蔵庫、仏壇、使い慣れた家具、ベッド等が持ち込まれており、居室は自由に飾りつけをしてもらっている。居室に掃除道具を置いている人もおり、必要に応じて職員が支援している。携帯電話の持ち込みも可能である。ベランダで花や植物を育てている人もいる。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。